

むらこ

新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

2003.5.15 第14号
発行人 渡辺孝教
題字 中山与志夫
事務局 神奈川県川崎市
麻生区向原3-5-5
☎ 044(953)8368

2003 同窓会関東支部のつどい

それぞれに重ねてきた人生

『ちよつと振り返る』ひとときを！

新緑のまばゆい季節を迎えました。様々な分野でご活躍されている会員の皆様には、ますますご健勝のこととご推察申し上げます。

ふるさとでは、『村上市・岩船郡市町村合併について』合併推進協議会が発足され、今後大きな発展が望まれるところであります。

さて、今年も同窓会関東支部総会および懇親会開催を予定しております。例年、会場では久しぶりの再会に、終始なごやかな雰囲気包まれ、懐かしい思い出話を花を咲かせ、変わらぬ笑顔、ちよつと変わってしまった「体型」が、時の流れを感じさせ、懐かしい顔に巡り会い、時には人生の糧となる話も聞けることもあります。きつと、素晴らしいひとときを過ごせる機会を得ることでしよう。

また、今年も開催場所を都心に移し、霞ヶ関高層ビル33階の会場からは、都内はもちろん、富士山をはじめ周囲の山々を一望できる景観で、ご出席される皆様にもご満足いただけると思っております。

是非、会員皆様方には万障お繰り合わせのうえにご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、『東京オリンピック』開催の年に卒業した私たち十六回生が微力ながら、ご準備させていただきます。

新制十六回生 実行委員長 松田七郎
実行委員 一同



2002のつどいから
百口の粗頤の夫々運が
お出迎え一受付風景一



村立高等学校同窓会関東支部
登木のはる朝日すの...
歌えばいつか心はひとつに

とき

平成十五年六月十四日(土)

受付開始 正午より

総会・懇親会開始 午後一時より

(途中からでもお気軽にどうぞ)

ところ

霞ヶ関ビル三十三階

「東海大学交友会館」

☎ 〇三—三五八一—〇二二(代)

会費

男女とも 八千円

平成十一年〜十四年 四千円

新卒者 無料

※会場準備の都合上、五月三十一日(土)迄に、同封の葉書により、必ず「ご出欠のご返事をお願い致します。」

皆様のお越しを

お待ちしております

会長 渡辺孝教

(昭和二十八年新制五回卒)

関東支部会員の皆様、益々お元気の事と存じます。日ごろは、何かと会の運営に、ご協力頂き有難うございます。さて、今年も懇親会が近づいて参りました。大勢一堂に会し、お互い和気藹々と楽しい団欒の一時を、過ごしたいと思っております。



今年も、十六回生の皆さんが、実行委員として、楽しい会にするには、どうしたら良いものだろうか、昨年から色々一生懸命考えて企画して居ります。ご案内の通り、懇親会場も「霞ヶ関ビルの三十三階」と皇居・国会議事堂・首相官邸等が一望のもとに見渡せる場所を選び、皆さんをお待ちしている処です。

同窓のお友達や同期の皆さんを、お一人でも多くお誘い合せて、気楽にご参加ください。役員、幹事、実行委員一同お待ちしております。

村高—歴史への散歩道

明治四五年 安田校長 幻の大礼服事件

安田英吉といつても今では「どういうお方か」といふ方が多いことだろう。しかし、校長を紐解けば、明治三三年開設された旧制村上中学校の初代校長としてその名を残した人物であることが知られる。創校百年余、多くの歴史を刻み込んだ散歩道へしばし足を踏み入れ、そぞろ歩きを楽しんでみることにしよう。

なお、本稿は八木三男氏(元本校教師)の著作「村上中学校教育小史(大正篇)」を基に読み易く再構築したものである。(文責大滝)

近代日本も開けて半世紀、明治四五年の夏は、暑さの中にも重苦しく過ぎようとしていた。既に夏休みに入っていた七月二十九日の午後十一時、村上警察署から学校へ電話があった。「今朝九時に陛下の御容態が悪化、危険な状態が続いている。正午には心臓鼓動数が一四〇、六、御手足末端が暗色になり、極めて危険な御容態である。」

今なら、宮内庁辺りの記者会見がテレビで即座に流れるところであろうが、当時学校への情報伝達は、警察を通じて為されるが多かったという。翌三〇日朝六時、県知事名の告示が警察より学校に伝えられた。「天皇陛下は今零時四三分崩御せられたる旨告示が発せられる。」

八月一日、雨のふる中、学校では天皇の追悼式が行われた。夏休み中の急なことで連絡のつく生徒が参集、職員は左腕に喪章を巻いた。ここまでは明治天皇死去の際の学校の単なる一風景に過ぎない。

「事件」は、夏休みも終りに近づいた八月二日の一通の電報から始まった。「安田校長に明治天皇の大葬(九月一三日)に県立学校の代表として参列せよ。ついで、大礼服の準備が出来るかどうか、折り返し返事が欲しい」との電報が届いた。生憎と安田校長は京都へ帰省中、驚いた学校では早速電報を打った。県への返事は急ぐ必要があり、しかし待てど暮らせど校長からの連絡はなかった。職員はやきもきしながら待機した。翌日も翌日も返事はこなかった。

やわんやの大騒ぎとなった。早速県に電話を入ると「実は参列者が二人と思つたところ一人になつたからだ」という訳の判らない返事。「何を今更」といつてみたところどうなるものでもなかった。

さあ大変、京都の校長あてに連絡をとると既に東京に立つてしまつたという。何しろ天皇の葬儀は初めての事、大礼服は東京の一流デパートでなければ出来なかつたことから、安田校長は学校への帰途、立ち寄るものと思われた。東京の宿泊先と思われた神田紅葉館へ照会電報を打つやうに、三越呉服店などに「安田校長から大礼服の注文があつたら見合わせて欲しい」と等と連絡したりの大わらわであった。

二八日夜には東京の正修館へ「安田いるか、二六日の任免は取消と伝えくれ、村上中学」と打電した。もはや、なりふりかまわぬ焦りに近い思いが電文から伝わってくる。しかし、依然校長からの連絡はないまま二九日も開けた。

安田校長がひよつこりと帰校したのは、その日の午後のことであつたという。学校中大騒ぎをしていたことは知るよしもなかったが、ともかくにもこうして「事件」は落着くを見ることになつた。

校長との間に、どういふ会話が交わされたか大礼服を発送したかどうかは定かではない。しかし、大葬には参列する用は無くなつたのだから、大礼服を着る必要もまた無くなつたものと推測されるが、不明である。

新幹線の今では想像出来ないが、明治末期、京都から村上へ帰るには、一端東京に出、信越線經由新潟へ、そこから徒歩か汽船で塩谷へ出、村上への経路をとつたものと考えられる。その夜の事を記した「宿直日誌」は、一度書いたものが墨消しされていたが、よく透かしてみると、次のように復元されたという。「夜、小使室に於て大酒宴を催し、喧騒を極むること夥し。御大葬前、職員は何事も謹慎中なるに、ちと不穏当なりと認む。如何也。」

思い出エッセー

あの日あのころいまじぶん

新潟県立村上中学校と私

鈴木喜一 (旧制39回卒)

一九三七年の春四月、私は入学した。



お城山の桜の蕾がふくらみ、青葉が萌える頃、私は中学校の制服を着、星の記章の帽子を被って、新しい鞆を背負い編上靴を履いて羽黒町の坂を下り、市場の通りを左に曲がると村上本町小学校の前が中学校の正門である。門を一步入って「敬礼」右手を上げて挙手、校舎に向い左から右へ、そして手を下ろす。

新入生は百名に満たなかったようだ。私の出た村上小学校の尋常科六年生、男子七ツ組約四十名のうち入学した生徒は三名であった。

——昭和十二年、私が入学した年は日中戦争が始まった年である。昭和の大恐慌、世界的な不況、青田売、失業、就職難、特に小学校入学の昭和六年頃は、米と繭の価格の暴落で、農村の窮乏ぶりは都市の比ではなかったと言われる時代であったが、私は知る由もなかった。入学の前年、二・二六事件の時は大町の又四郎本屋の前の張紙を見て恐ろしいと思った。

同級生は郡内のほか、北海道、東京、更にはアメリカから来た二世の者がいた。ロングと言われた彼の英語は、米国の言葉で、習っていたキングズイングリッシュとは違い、その発音に驚いた。剣道と柔道は、一年生の時は正科、私は五年間剣道だったが、寒稽古等、今の私の健康を支えてくれている。

祭日には、講堂に集って教育勅語と訓話をきく。「兄弟に友に夫婦相和し朋友相信じし」

ただ、式のあと控室で五年生のきびしい説教があった。

村上小学校を出た生徒の会を「至動会」という。毎月の会合を小学校で行い、弁論大会、先輩の上級学校入試体験などを聞いた。時には試胆会があった。宝光寺の焼場へ行って名前を書いて来るのである。真夜中、一人で月の明りをたよりに、お

墓にかこまれた山の焼場で自分の名前を書いてくる。気持ちの悪いものであった。

昭和十六年十二月八日日本は米英に戦線を布告した。全校生徒が講堂に集り、校長先生の話を聞いて、身震いする思いであった。

昭和十九年兵役年令一年切下げ、予備士官学校入校、二十年八月敗戦、復員のあと再び級友と交友を重ねることになった。

日君は小学校からの親友であった。私が地方へ出張して共に飲み、彼が退職後は我家で民謡を謡った。彼が死の床にいた時「三面川は永久に」と歌うと彼の顔に生気が蘇った。

T君が大宮へ引越して来たのは、妻の病をなす為、東大病院に診てもらおう為という。

M君の妹が詩集を出した。彼の奥様を訪ね、若き日のロマンスを話してくれた。

S君は真面目な男だった。郷友会の会合に来て写真を撮ってくれた。今健在の友は三十名位。同級生は皆夫々の才能を開花していた。先日しばらく消息のなかった友から句集が届いた。

わが鮎の雲曳きのぼる影早し

ザ・さべりばし

川村 正 (新制4回卒)



実家(村上市下相川)から村上市内、神納方面に行くには現在、坪根橋、さべり大橋、さべり橋がある。昔はさべり一本であったが、現在のこの橋は下流に架け変えられており見ることはできない。

門前川に架かるこの一本の橋は、当時岩船郡北郡六か村にとつては重要な橋であり、四回生十三名もこの橋を通学路とした。そしてこの橋を背にして写真を撮り卒業記念アルバムに収まった。そのコメントに「いずこえ行くや流浪の民」と付いた。その流浪の民にも村上市教育長になった方をはじめ各方面で活躍され、社会に貢献している人達がいることはよく知られているので省略したい。私も卒業した年にトランク一つで東京に出た。それから早いもので五十年が過ぎた。そこで郷里

新潟との係りのあったことなどを述べてみたい。

今年の賀状に新潟の冬を十七文字で知らせてくれた人がいた。「障子鳴り鯛ならずとも寝てられず」鯛越しの雷鳴のすこさも新潟を離れて長くなるとすっかりお忘れでしょうが、雰囲気だけでも思い出して下さいとのことであった。子供のころきいた雷鳴を昨日のように思い出したのである。

昨今「古希稀ならず」諸兄お元気ですか、村高を巣立って半世紀、百五十名の同期生にはそれぞれの人生がありました、励ましあい百歳を目指したく：との内容で高校時代の同期会の立派な案内状が届き、昨年八月三十日に村川越さん達と瀬波温泉汐見荘に一泊二日の旅をした。四十三名が出席し、五十年の顔・顔と再会し、夜遅くまでそれぞれの人生を語り合った。三年後の再会を期して、翌朝汐見荘を後にした。残念であったのは、友二割の三十名の方が他界されていたことであり、ご冥福をお祈りしたい。

昨年夏、金沢城見学の翌日、こんどは、新井市にある標高一八三米の鮫ヶ尾城跡に登ってみた。上杉謙信が武田信玄の進出に対し長野方面への備えとして築いた春日山城の出城である。案内なしでは登れない、険しい尾根や急斜面を削って築いた郭や、要所に空堀、たて堀、よこ堀を配した堅固な守りの城郭であるが、今は鮫ヶ尾城跡だけである。謙信没後、景勝と景虎の二人の養子が越後を二分して争った「御館の乱」で、敗走してきた景虎が自害した悲劇の城としても伝えられている。暑い最中、若い二人の女性が登ってきて、疲れた私を後から助けてくれた、景虎ファンで静岡から夏休みを利用して来たもので、頂上で涼風をうけ一休みした後、山を下って行った。

最後に、手前味噌のかけ橋である。昭和五十八年夏、寒川常福寺の鐘が四十年振りに返還されることになり、その手助けをしたことである。返還後、檀家総代からこのことを村内檀家、子孫に末長く伝えていきますとの感謝の礼状をいただき、郷里のためにしたこの小さな行動が、さべり橋を渡って五十年過ぎた今でも爽風として心に残っている。

東京消防庁に身を投じ、四十一年六カ月を勤めあげたことをよしとしたい。来年は古希である。

「村上の味」

川村正孝 (新制9回卒)



村高を卒業し、故郷を離れて、はや46年の歳月が流れた。元気があった父母もすでに亡く、70歳を過ぎた兄夫婦が家を継いでいるという世代交代の現実、時の流れを充分に感じさせてくれる。

若い頃は、やれ「故郷はやっぱり落ち着く……」「村上大祭は絶対に見に行かないと……」「七夕も……」「瀬波温泉でのんびりと……」等々都合の良い理由を並べたて、頻りに行き来したのだが、就職し、結婚し、会社でもそれなりの地位に就くと、そう簡単に自分勝手の時間を作れなくなってしまう。その気になりさえすれば何とかなるもの、ひとたび足が遠のくと億劫にもなり、身内の冠婚葬祭以外では数えるほどしか帰省していない。

私も3年前の定年退職後、現在も週3日の仕事を引き受けているが、多少の時間的な余裕はあるものの、父母のいない実家ではついつい遠慮がちになってしまい、行けないことへの理由付けに拍車がかかってしまう。

しかし、村上に帰ることが極端に減ってしまった現在でも「村上の味」には特別のこだわりを持っている。私は在職していた当時、出版社の営業部門を担当していたので、日本全国をくまなく回り、足を踏み入れているところは殆どない。各地の名産、珍味なるものをいろいろ味わってみたが、村上の「塩引き鮭」に勝るものにはついぞお目にかかったことがなかった。ろくな食べ物がなく、いつもひもじい思いをしていた昭和20年代の小学生の頃、大晦日だけはたらふく食べられたあの「塩引き鮭」の食感がいまだに至上のものとして、体に深く染み付いているのである。

古来から鮭と深く関わり合ってきた村上そのものの味、他に類を見ないその舌触りは、今や、一地方都市のマイナーな特産品から全国的なメジャーな名産品としての位置付けを不動のものにしてつづつあるようだ。そのことはTVでも度々取り上げられたり、インターネットで「塩引き鮭」を検索すると何と！ 280件もの項目がズラリと並んでいることでも容易に裏付けられる。

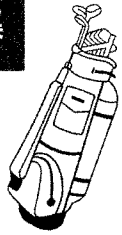
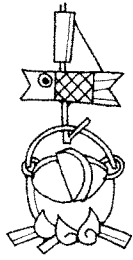
村上出身以外でお世話になった人にお歳暮とし

て「塩引き鮭」を贈ると本当に喜ばれ、殆どの人から「金を出すからもつと食べたい。」と言われる。これもこの味が日本人の口に本当に合っている、他には得がたい唯一無二の味であることが立証されたと言っても決して過言ではないように思われる。今ではこの「村上の味」を知った人達は、村上の製造元に直接注文するようになってしまった。私も毎年、暮れになると贈られてくる、兄の手作りのものを1本と、その他に2本注文し、それを切り身にして冷凍保存、その都度借しむようにしながら食している。

半世紀近くも村上を離れていながら「塩引き鮭」への愛着や、こだわりがあるのは、鮭は、村上出身者にとって祖先から受け継がれてきた未来への遺産なのだろうか？

第2次大戦後、三面川の鮭は絶滅の危機に瀕したこともあったが、鮭を愛する人々の尽力で、鮭は現在、数多く三面川に戻ってくるようになったという。関係者各位の不断の努力に感謝しつつ、さらにこの伝統産業が発展することを祈りたい。

「故郷は遠くにありて思ふもの。」 「故郷の味も遠くにありて思ふもの……。」



臥牛会 会員募集

ゴルフ同好会

臥牛の麓で学んだ同窓の絆を深めようとの主旨で年二回(春・秋)ゴルフコンペを行っています。どなたでもお気軽に参加下さい。

幹事・鈴木 亮 (新制九回卒)

☎〇四七(四四四) 五一八三

想い出

三科禮三 (新制17回卒)



春 新調した詰めえりを着ての入学式。各クラスに別れての初の顔合わせ。一クラス五十人は、男女ほぼ半数だったと思う。静かな緊張感のあの時を、今も憶えている。クラスに、私と同じ、岩船中学校出身の女生徒が一人いた。

自転車で往復する国道七号線の両側は、良く耕作され、水を張られた田がひろがっていた。一ヶ月後に、田植えの季節となる。

夏 ある朝、女生徒の服装が、濃紺のスーツから、白いブラウスに、一斉に変わった。まぶしく感じた。衣がえだとわかったのは数週間後。やがて、かくいいう私自身も、Yシャツなるものを、着用するようになった。

神林村今宿の実家より、村高まで、自転車で、三十分。旧国道七号線は、砂利道で、ホコリ舞い散る中を、ベダルを踏んだ。

田は、一面の緑と広がり、眼をあげると驚ヶ巢山、その左遠方に鳥海山を望むことができた。

秋 中間、期末の各テストの成績が校舎の廊下に、貼り出された。上位五十名を、科目ごと、さらに総合で氏名と点数で発表したと記憶している。一科目得意なものをと、特に英語を熱心に勉強した。二年三年とクラス担任であられた、高橋大二郎先生の英語の授業は、メリハリが効いていて楽しみであった。経営する仕事の関係で、ここ十数年毎年北米、欧州を回っているが、通訳なしで、なんとかかすんでいるのは、この当時の基礎学習があったればこそと思う。先生に感謝する想い大なるものがある。

まさに黄金の稲穂が、九月頃より、風にゆれていた。空は、いつにも増して高く青く晴れわたる日が多かった。お城山より望む四方の田、山、川そして日本海。山紫水明とは、我がこの地のこととの感慨を幾度いだいたことだろうか。

冬 当時は積雪が多く、冬の間だけ車で通学した。岩船町駅より村上駅までの一区間だけの乗車。冬だけの出会いと淡いときめきがあった。岩船町駅はいつのまにか、無人駅となった。

師走に入ると商店等に、塩引き鮭がとろせましとつるされ、並べられた。私の実家でも、毎年大晦日のメインデッシュは、大きな鮭の切り身を焼いたものであった。

約四十年まえの事ではあるが、鮮明に覚えていることも少なくない。多感さの為せることか。

上京して四十年。この間、我が村上の鮭のうまさ、いく十人の人に語っただろうか！

そして我が故郷の田、川、山、海の香りのことをも。

村上の「お人形さま巡り」へどうぞ

高橋盛男 (新制28回卒)

「久しぶりに帰ってきて思うんだともさ」と、泉町はいさみやの次男坊。

「ああ？」と、大町は江戸庄の長男。高校を卒業し、村上を出て以来だから、彼とは27年ぶりの顔合わせになる。

「おれみてに村上離れても、生まれたまちのことを何となく気にしている人、いっぺんこといと思うんせ。その人らに、もつと村上に目を向けてもらうこと、できぬるか」

「それ、いいね。なんかうまい方法ねえかな」

「昨年3月と9月、仕事がらみで村上に帰った。まちを見てまわり、いろいろな人に会った。江戸庄の空橋もその一人。親の跡を継いで食堂を営み、村上牛の売り出しに熱心に取り組んでいる。」

今、村上はおもしろい。

味匠きつかわ(大町)のせがれが発案し、村上町屋商店街がはじめた「お人形さま巡り」や「屏風祭り」は、今や中心商店街の名物イベント。たった3年で、市の人口の倍にあたる観光客を呼び込むほどになっている。

県の事業だが、大滝漆器店(上片町)の次男が中心となって進めてきた、村上を含む岩船郡7市町村の地域起業支援ネットワークは、全国から注目され、視察が絶えない。

今ぐらいい、村上が力強く、おもしろく、動いていることは、かつてなかったのではないか。帰ってみてそう思ったが、村上を離れている村上っ子たちは、どのくらいそうした動きを知っているだろうか。

ろ。

私自身、ふるさとを離れて久しい。どこかで村上を気かけながらも「もーは、村上の人間ではねえすけな」と思い、これまではさして目を向けることもなかった。

そこで、反省もこめて冒頭のお話。ふるさとを離れている人達が、ふるさとのPR係になってくれたら、ものすごく大きな力になるんじゃないだろうか。

村上高校の同窓生が、関東に4500人もおり、同窓会関東支部が発行する新聞を読んでいる人が1800人もいるという。過分にも、このたび寄稿する機会をいただき、初めてそれも知った。

たとえば、そういう方々がふるさととの結びつきをもつと深められる仕組みなり、機会があれば。おしい、空橋、首都圏に住んでいる村上人1000人が、村上牛のうまさを知ったら驚くぞ。ふるさとと自慢に、他の人にも話して、広めてくれるかもしれない。

そんな村上の応援団ができるのではないか。村上は、旬を迎えようとしている。志を持つ市民が、新しい時代を拓きつつある。3月の「お人形さま巡り」と、9月の「屏風祭り」は、そんな村上の今を見るのに、格好の機会だと思っ。

「おれの生まれたまちが、何かおもしろいことをやっているようだ」と、改めて目を向ける「鮭の子」が一人でも増えたら、村上はもつともっと元気なまちになる。

昭和39年卒業

◎16回生 同期会 全員集合!

卒業40年、これまでの人生を心ゆくまで語り合おう。

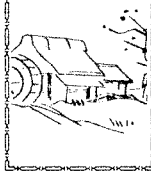
六月十四日の同窓会終了後、午後三時より別室にて同期会を行います。(会費三千元)ふるつての参加をお待ちしています。

(同期会のみ出席可)

連絡先

川村 稔 ☎〇四七一(九二) 七五三八
佐藤三男 ☎〇四六八(七二) 六四八三

ふるさと情報



ご贈答に、自家用に

故郷の銘酒をお届けします

皆様お元気ですか? 村上はいまお祭り(七月七日大祭)を...

米よし水よし空気がよし、村上をまるごと発信。全国どこへでも発送いたします。

Table listing various sake products with prices, including 吟操, 純, 雪, 月, 花, etc.

※消費税別途

Table listing shipping rates (送料) for different quantities of bottles (1本, 2本, 3本, 6本, 8本).

*便利な代引き便にてお送り致します(手数料一万円まで...)

日本名門酒会加盟店 夕田村酒店 村上市上町一三三

社長 加藤悦郎(十三回卒) 〇二五四(五三)三〇四八

役員一覧

Table listing board members (役員) with their names, positions (職名), and graduation years (卒業回).

海や山の自然の香りを「旬」にお届けいたします

「山北町 まごころ宅配便」をどうぞ!

地元で作られた山菜や海産物、お酒等のこだわりの逸品を...

A. アク笹巻 5月発送 25個入り 三〇〇〇円

50個入り 五〇〇〇円 山北町のもち米を天然笹でく...

B. 地酒「日本国」8月上旬 発送 720ml 2本入り

四〇〇〇円 酒造最適米たかね錦を地元の良質な湧き...

C. 新米セット 12月中旬発送 七〇〇〇円

山北町をまるごと出荷。ツヤと味は最高。地元で採...

*発送時期に違いがありますのでご注意ください。 *ご家庭はもちろん、お中元お歳暮にも利用できます。

山北町観光企画課内

まごころ宅配事業事務局

山北町大字府屋 一三三三 〇二五四(七七)三二二一

平成15年度維持会費拠出者 15年3月10日現在

Large table listing donors (維持会費拠出者) for the 15th year maintenance fee, organized by graduation year (旧制, 新制).

●維持会費のご協力をお願いします

同窓会の活動運営を支える唯一の財源として、皆様に年間1口(2千円)以上の維持会費をお願いしています。